



 広報

きょうたんて

vol.87

主な内容

- 特集 KTR利用促進運動
乗ってつなごう未来へ
- 開局2周年記念特集
いま、「FMたngo」に注目。

フォトグラフ 大宮町三重に伝わる奇習 ほか

2011
平成23年
6月号

私たちのKTR宣言

「乗ってつなごう 未来の子どもたちへ」

私たちは、
私たちの大切な鉄道であるKTRを守り、
次世代へつなぐことを宣言します。
今、私たちのKTRを守り抜くために、
私たち自身が積極的に
行動することが求められています。

私たちにできることは、

1、 KTRが私たちのふるさとにとって、
なくてはならない

私たちの大切な大切なパートナーであることを
一人ひとりが改めてしっかりと認識すること。

2、 私たちが愛するふるさとを育み、
元気な地域をつくるため、

KTRとともに私たちが一緒に走り続けること。

3、 そのためにKTRを一人ひとりが
こよなく愛し、

私たち自身の手で守り続けていくことです。

私たちは、先人の方々が

創り、育て、守り続けてきたKTRを、
確実に次世代に継承する責任があります。

私たちは自ら積極的に行動し、

「乗ってつなごう 未来の子どもたちへ」

をスローガンとして、

私たち一人ひとりの力を

みんなで合わせて

取り組んでいくことを宣言します。

平成23年5月22日

みんなでKTRを考える住民参加シンポジウム

<宣言読み上げ>

府立峰山高等学校3年生 木下 光 君



約600人の住民が参加したKTRシンポ（府丹後文化会館）

市民ら600人が参加

KTRの利用促進策を話し合う

「みんなでKTRを考える住民参加シンポジウム」が5月22日、府丹後文化会館（峰山町）で開催され、沿線自治体の住民約600人が参加しました。経営状況報告やパネルディスカッションなどを通じて、KTRの利用促進策について話し合いました。

「鉄道は絶対に必要」

このシンポジウムは、京都府と兵庫県、沿線6市2町で構成する利用促進協議会が企画。

開会にあたり、中山市長が「まちを継続し、発展させていくためにも鉄道は絶対に必要。KTRのかけがえのない役割を住民の皆さんに再認識してもらい、KTRに何を望むかではなく、KTRに何ができるかを真剣に考え、行動していくきっかけにしてほしい」とあいさつしました。

「KTR利用者が減少」

最初に、KTRの大槻茂社長が「平成5年度の303

万人の利用者をピークに21年度では199万人まで落ち込み、1日あたり196万円の赤字が続いている」など厳しい経営状況を説明しました。

「通学を支えてほしい」

続いて、協議会事務局から高校生やビジネスマンなどKTR利用者の声を紹介。「観光で人を呼ぶことが地域の活性化には不可欠」（観光事業者）、「これからも私たちや、弟や妹の通学を支えてほしい」（高校生）といった声が画像を交えて紹介されました。また、「現在、丹後の駅を利用する高校生は850人。通学時は満席で車内は学生

で溢れるが昼間や夜間は閑散となっている現状」も報告されました。

KTR宣言に大拍手

後半のパネルディスカッションでは、「KTRに私たちができること」をテーマに高校生や老人クラブの元会長などが参加。「月に1回はKTRを利用しよう」など利用促進に向けた活発な議論が展開されました。（4・5ページ）。

最後に、利用者を代表して、

峰山高校3年生の木下光君

が「私たちのKTR宣言」（次

ページ）を力強く読み上げる

と、会場から割れんばかりの

拍手が送られていました。

目次

index

特集 KTR利用促進運動
乗ってつなごう未来へ P 2

開局2周年記念特集
いま、「FMたんご」に注目。 P 6

市政トピックス P 10
市上下水道審議会へ諮問／一般会計補正
予算（第1号）案を提出 ほか

フォトグラフ P 14
大宮町三重に伝わる奇習

まちのわだい P 16
稚アユ3万匹を野間川で放流／丹波小児童
が震災被災地へメッセージ ほか

京都府のひろば P 18

地域医療の現場から P 19

みんなの広場 P 20

情報ファイル P 24
京たんごスポーツ／生命の絆／市の文化
財／図書館だより／広報クイズ ほか

京丹後人 14 P 28
「ウインズやさか野」会長 今西 芽織さん（弥栄町）

今月の笑顔



川戸 光代さん（弥栄町和田野）

プロフィール

昭和54年1月生まれの32歳。趣味はブレイクダンス（表紙写真）。昨年5月の日本大会、同11月にフランスで開催された世界大会で優勝する実力者。現在、府立看護学校で看護師を目指して猛勉強の毎日を送っている。

◆いま熱中していることは？

丹後で「新しい発見。をすることです。人や自然、食べ物屋さん、なんでも、少し見方を変えてみると驚くような発見がありますよ。ジオスボットにも行きたいです。

◆京丹後市のおすすめスポットは？

経ヶ岬灯台です。天気がいいと澄み渡った海の向こうに能登半島が見えます。開放感に浸りながら缶コーヒーを片手に望む絶景は、格別です。

◆広報紙について一言

レイアウトが良くて、読みやすいですね。特に、写真で見せるフォトグラフは楽しみにしています。

川戸さんは、今年のフェスタ飛天（8月7日）に出場予定です。世界級のブレイクダンスをご期待ください。



土井 勉 特定教授
京都大学大学院工学研究科

公共交通は、「収支（赤字・黒字）よりもまちを支える装置である」という考え方に変わってきています。世界では、社会のなかでどれだけ役に立っているかということが重要で採算重視の考え方ではありません。

KTRがなくなれば、確かに赤字は解消されます。しかし、教育・学校選択の幅の縮小、医療、福祉、観光、産業の別輸送の確保など、今の行政サービスを維持しようとすれば、かえって費用は高くついてしまう結果になります。

また、鉄道がなくなることでのまちの損失はもっと多方面に及びます。

関西の大手私鉄も輸送人員はこの20年間で減少し続けています。決してKTRだけの経営問題ではありません。

京丹後市の、KTRへの赤字補填額は

統括

「KTR再生の道筋」

公共交通は収支よりもまちを支える装置

9,000万円で一見多く思えます。しかし市の一般会計約300億円の0.3%に過ぎません。

一方で、8.3*の宮津野田川道路の工事費は330億円かかっています。当然、道路の維持費もみんなの税金で負担しています。道路も鉄道も両方大事。社会の役に立つようにどのようにお金を使っていくべきかの議論が先にあるべきです。

公共交通の目的は、利用者が「便利だ」と思い乗ってもらうことです。上限200円バスの取り組みは、まさにそれを実践しており、全国から先進事例として注目されています。バスと鉄道との連絡はますます重要です。

まずは、沿線の皆さんが具体的に「月1回KTRに乗ること」についてどうやったら自分は乗ることができるのか、それぞれが考えてみることから始めてみましょう。KTRや行政に対してではなく私たち一人ひとりができることを考えていきましょう。

KTR再生の道筋を考えるためにも、まちづくりの「ビジョン」だけでなく、夢をもって未来について議論をしていきましょう。

特集 KTR利用促進運動

乗ってつなごう未来へ



森 四郎さん
(網野町老人クラブ元会長)

ゴーストタウンにしてはならない
丹後は一つです。一人ひとりが自覚し1回でも多く乗る機会を作りましょう。丹後をゴーストタウンにしてはなりません。丹後で老後を楽しむまちづくりを進めれば人口は増えます。そうすれば都会から孫や子どももKTRに乗ってきます。人口を増やすことを真剣に考えるまちづくりとKTRの発展を同時に考えていくことが大切です。



中貝 稔さん
(但馬三江駅「ぼっばや」運営)

「乗りたい」と思える鉄道に
地域の活性化と但馬三江駅を盛り上げようと、地元応援団を結成しました。素人料理の店「ぼっばや」で手打ちそばを振る舞っています。テレビの取材もたくさんきます。山陰海岸ジオパークの列車ツアーや久美浜駅での日曜朝市などの四季のイベントももっと広く発信できると思っています。みんなが「乗りたい」と思える鉄道にしていきたいです。



今井 麻衣さん
(府立宮津高等学校2年)

乗車時間を勉強に有効活用
KTRは地域のシンボルです。もし地域の交通がバスだけになったら、丹後は衰退してしまうと思います。久美浜駅から宮津駅までの片道1時間の乗車時間は、勉強など有効に使うことができます。友達を誘ってKTRに乗る旅行にも出かけたくなります。誰もがKTRを快適に利用するためには、高校生の乗車マナーの徹底も大切です。



渡利 謙太郎さん
(府立加悦谷高等学校校長)

鉄道なくして高校の存立なし
高校生のKTR利用は増えており、丹後の通学生徒は現在850人とい。KTRなくして丹後の高校の存立はあり得ません。KTRは駅に降りてからのアクセスに困ってしまつたため、バスとの連絡は必要です。KTRの収入の大半は、定期外なので、観光客を惹きつける魅力(奈具海岸からの車窓など)をもっとアピールすることが大切です。



藤井 美枝子さん
(市商工会女性部長)

地域産業や観光の振興に絶対必要
商工観光業はお客さまが来てくれないと商売になりません。市内の5つの駅に丹後ちりめん製のおもてなし看板を5枚製作しました。地域産業や観光の振興のためにも、都市部を結ぶKTRはこれからも絶対に必要です。みんなが月に1回利用するだけで赤字は減ります。月1回は乗りましょう！

パネラー

パネルディスカッション

KTRに私たちができること

コーディネーターに京都大学大学院の土井教授を迎え、「KTRに私たちができること」をテーマにしたパネルディスカッションでは、5人のパネラーや来場者から貴重な意見が出されました。その一部を紹介します。

本気で取り組むことが重要だ

200円バスの取り組みに関わった。丹海バスは、本気になって取り組んでくれたからできた。KTRも本気になることが重要だと思う。

KTRの乗車マナーで気になるのは、特

に高校生の男子。マナーの悪い生徒を私は叱る。彼らは素直に聞いてくれる。社会との接点を学ぶ場として大人たちがきっちりとも注意することも必要だ。

峰山町在住 高見 慧さん

京都府と兵庫県全体の問題だ

私は京都市に住み、仕事はケアマネージャーをしている。認知症のかたは、残念ながら交通事故率が高い。免許を返納してほしいという思いがある。

学生のころから、小天橋海水浴場(京丹

後市久美浜町)などに何度も訪れている。KTRの問題は、この地域だけの問題ではなく、京都府南部も含めた京都府全体さらに兵庫県も含めた問題として考えていただきたい。

サポーターズクラブ会員



来場者



沿線住民が年1回多く乗るだけで乗車実績が40万人増えます(写真は対面座席車両の丹後ゆめ列車Ⅱ)

あなたも「ワンモア運動」を!!

行動指針は

例えば、

- ①年に全く利用していない人(0回)は、年1回は利用する。
- ②年1回の利用の人は、さらに1回利用する。
- ③月1回の人は、さらに月1回利用する。

北近畿タンゴ鉄道利用促進協議会の総会が5月22日、峰山地域公民館で開催され、沿線自治体の市長や町長、議会議員、商工会長らによるKTRを支えるための協議の結果、「沿線住民40万人の行動指針」が決定しました。

沿線住民40万人の行動指針

一人ひとりができる範囲で、統一活動を行い、利用実績を上げることに、KTRを未来につなぐという運動です。まずは、さまざまな組織や団体がさまざまな場面で乗車の機会をつくることから始めましょう。

など

シンポジウムの内容については、京丹後ケーブルテレビおよびFMたんどで放送予定です。



私たちも注目しています!!



写真上段：左から井上あらしさん、野木友幸さん
写真下段：左から糸井哲良さん、古川葉月さん

市民は地元に着した情報を望んでいる

FMたんごは、地域を活性化し市民生活に役立つ情報を提供する、まさに「まちのラジオ局」だ。そしてこの局は、スポンサーや「はなこの応援団」という形で、地元企業や市民に支えられている。「地元の話題を聴くのは楽しい。もっと観光情報や地域のイベント情報、地元企業をたくさん紹介してくれたらいいのに」(大宮町の自動車整備業・石河新治さん)。「子どもたちが出演する番組があればぜひ聴いてみたい」(園児を持つ母親)との声もある。

地域情報の発信と住民参画が特徴

コミュニティFMは、「市町村の一部の区域において、地域に密着した情報を提供する超短波放送局(FM放送局)」と定義され、きめ細やかな地域情報の発信と番組制作への住民参画が特徴だ。都道府県を単位とした「FM京都」などの県域放送とは異なり、地元の情報を最も身近に、かつ即座に入手できるのが魅力だ。

身近な話題と情報で親しまれる看板番組

イベントの司会者や芸人として活躍しているDJピー人を超える市民がパーソナリティー(番組進行司会者)として番組に出演。ほとんどがボランティアで放送を行っている。

彼らは、市内や周辺市町の会社員や主婦など。年齢層は20〜80代までと幅広い。番組はすべて自主制作で、市政情報や観光情報、一般ニュースのほか音楽情報、絵本の朗読などと多彩だ。

「僕は、自称『京丹後市盛り上げ隊』。丹後のええ所を踏まえたしゃべりで、リスナーに楽しんでもらえる番組づくりを目指している」と、意気込みは熱い。

そして、最もよく聴かれているという同局の看板番組は、「たんご・モーニング・サンド!」。市政情報や身近な交通規制情報、生活情報などを午前7時から2時間の生放送で伝えている。メンバーパーソナリティーでありスタッフでもある宮川優さん(37)も「リスナーがうなずいてくれたり、突っ込んでくれたりする、反響のある番組づくりを心掛けています」と話す。

FMたんごは、災害時ににおける地域の情報源

コミュニティ放送は、特

に災害時には地域にとって有益な情報源になる。全国で災害を機に次々とコミュニティFM局が開局されていることから明らかだ。地域密着型のラジオ局であるが故に、災害時における市民の期待は大きい。FMたんごもまた、丹後地方に甚大な被害をもたらした平成16年の台風23号の教訓をきっかけに開局された。

このため、市は同局と「災



DJピーナッツさん



宮川優さん



和やかな雰囲気広がるスタジオ内で、「みゅ〜じゅくぱふえ」を生放送(5月24日)

開局2周年記念特集

いま、「FMたんご」に注目。

コミュニティFM放送局「FMたんご」が、この6月1日で開局2周年を迎えた。「リスナー(聴取者)に『応援したい』と思ってもらえる、魅力ある番組制作に取り組んでいきたい」と、スタッフは心を新たにしている。地域の情報発信基地として期待されている同局が、これからどのように地域との関わりを持って放送に取り組もうとしているのか、市民にとってどのような存在であるべきなのか、取材した。



スタジオ見学で、ラジオ放送の雰囲気を体感する子どもたち(平成22年8月)

「FMたんご」は、NPO法人「京丹後」コミュニティ放送」が運営する、府内6局目のコミュニティ放送。市内世帯の約8割をカバーしている。電波の届かない地域でも、ケーブルテレビを利用して聴くことができる。周波数は79.4MHz。毎日午前7時から午後9時まで放送している。局舎は、北近畿タンゴ鉄道(KTR)峰山駅東口の向かいにある。

同局は、「人の心と心の交流を深める」「丹後の魅力を発信する」「伝統文化の発展に貢献する」「地域の安全を守る」を柱に、情報発信基地づくりを目指している。

京丹後コミュニティ放送										2011.6.1現在			
FMたんご 番組表										周波数 79.4 MHz	生放送		※放送は変更する場合があります。
	月	火	水	木	金	土	日						
7:00	たんご・モーニング・サンド！ 出演：宮川 優 ニュース・京丹後市からのお知らせ・交通情報・京丹後市情報BOX(隔週)・商工会からのお知らせ ＜みんなDEレポート＞ ・ふりちゃんとみんなの“わ”・おしえて!! Wikipedia!・丹後は1つプロジェクトわん♪・たんごワクワ街NAVI					命の授業 出演：内藤 晃		7:00					
8:00						ヒーリング・シンフォニー		7:06					
						たんごウィークリー サンド！Part1 「たんごモーニングサンド！」 から抜粋	心のボエム出演：み〜こ 丹後さんきょうだい (再放送)	8:00 8:24 8:30					
9:00	翼の京丹後ミュージックハーモニー 出演：翼 良・池内 晴子	Session 794	music entertainment ラジP！ (再放送)			岩崎 晃の クラシック談話室 (再放送)		9:00					
10:00					☆ミラクル ペイント☆ (再放送)	絵本の広場 たんぼぼの気分でおしゃべり (再放送)		10:00 10:30					
11:00	Music Jam Mart					たんご メッセージ うえ〜ぶ (再放送)	たんご Music Friends (再放送)	11:00					
12:00	フォークDEないと 出演：ばんばらこ (月2回更新)	ヒーリングシンフォニー				たんご ウィークリー サンド！ Part2	たんご ウィークリー サンド！ Part3(再放送)	12:00					
12:50	ヘッドラインニュース												
12:54	京丹後市からのお知らせ												
13:00	みゅ〜じっくぱふえ 火・水：生放送 出演：(月・火・木(再放送))大江 美帆子 (水)宮川 優 (金)killerqueen (2週に1度更新)					Hertz station ラジ☆こみゅ (再放送)	はんぐあうと (再放送)	13:00 13:30					
14:00	☆ミラクル ペイント☆ 出演：李虎・ヒビキ	かぐやとちよつとひと思・ お茶タイム♪ 出演：かぐや	たんぼぼの気分でおしゃべり 出演：たんぼぼ	丹後さんきょうだい 出演：ふりちゃん・優・ヒビキ	Hertz station ラジ☆こみゅ (再放送)	かぐやとちよつとひと思・ お茶タイム♪ (再放送)	たんぼぼの気分でおしゃべり (再放送)	14:00 14:30					
15:00	Music Jam Mart					たんご ウィークリー サンド！ Part3	たんご ウィークリー サンド！ Part2(再放送)	15:00					
16:00	歌謡百彩					翼の京丹後 ミュージックハーモニー (再放送)		16:00					
16:50	ヘッドラインニュース												
16:54	京丹後市からのお知らせ												
17:00	イブニング794 出演：(月)killerqueen (火)大江 美帆子	はんぐあうと 出演：TAKE (2週に1度更新)	たんご メッセージ うえ〜ぶ 出演：宮川 優・GUN II	K's Factory 出演：K	K's Factory (再放送)	☆ミラクル ペイント☆ (再放送)		17:00					
17:30	Music Jam Mart												
18:00	music entertainment ラジP！ (木曜〜土曜再放送) 出演者：DJ P-NUTZ						K's Factory (再放送)	18:00					
19:00	Session 794		岩崎 晃の クラシック談話室 出演：岩崎 晃	フォークDEないと (再放送)	Session 794	たんご Music Friends 出演：ダリル永岡 (2週に1度更新)	Session 794	19:00					
20:00	A&B MUSIC 出演：ヒビキ・K (2週に1度更新)	RADIO BAR 出演：P-NUTZ・マスター (2週に1度更新)	Ani Lover 〜アニラブ〜 出演：佐伯 南智・ヒビキ (2週に1度更新)	Hertz station ラジ☆こみゅ 出演：井上 智陽		A&B MUSIC (再放送)	Ani Lover 〜アニラブ〜 (再放送)	20:00					
21:00	放送終了								21:00				

NPO法人 京丹後コミュニティ放送

FMたんご 79.4 MHz

FM Radio Station fm-tango.jp/

E-mail : 794@fm-tango.jp TEL (0772) 62-7941 / FAX (0772) 62-7945



私たちも注目しています!!



写真上段：左から安田豊子さん、川村さおりさん、糸井裕美さん、矢野鉄夫さん、富田雄真さん

写真下段：左から渡邊秀信さん、大木明美さん

害時応援協定」を結び、災害情報の放送を依頼。台風や大雨時には警戒情報を流したり、今年3月11日発生の東北地方太平洋沖地震では、本市に発令された津波注意報を緊急放送で伝えたりしてきた。

さらに、この5月29日から30日未明の台風2号による大雨の際には、市内の通行規制情報や避難情報などを適時放送。社会的・公共的に重要な役割を果たしている。同局のスタッフ・中西進さん(42)は「有事の際に役立たないラジオ局にしてはならない。そのため、普段か

らマニュアルの作成や訓練にしっかりと取り組んでいきたい」と力を込める。

特別番組や企画番組で、魅力をPR

多くの市民にFMたんごの魅力を提供するため、同局は、イベントや特別番組などにも力を入れている。「丹後あじわいの郷月例祭」(毎月第3日曜日に開催)で行われている公開模擬放送(会場内のみの放送)は、生放送の雰囲気味わえるとあって来場者から好評だという。また、網野町浅茂川地区の水無月祭では、花火大会の臨場感を

生中継で流した。

「30秒メッセージサービス」は、個人の伝言や企業の情報などを紹介する。利用企業から「お店を知ってもらえるいい機会になった」「お客さんが増えた」などの喜びの声が寄せられるなど、反響は大きい。スタジオ見学も積極的に受け入れており、中学生が職場体験学習に訪れることもある。

約2割が「よく聴く」「聴いたことがない」は約4割

ところで、FMたんごは市民にどれだけ聴かれていたのだろうか。同局が今年

3月、600人にアンケート調査を実施した。

「FMたんごを聴いたことがあるか」の問いに対し「聴いたことがない」と答えた人が39割を占めた。そのうち31割は「FMたんごを知らない」と回答したのだ。一方で「よく聴く」と答えた人は、17割にとどまっている。

この結果に対して宮川さんは「やはり現場取材が少なかったのが原因。現場に出ることで、この放送局のPRもでき、リスナーの声を番組制作に生かすこともできたはずだ」と振り返る。スタッフたちも「もっともつと地域に密着した番組を充実させ、認知度を高めて聴取率を上げたい。そのためには、積極的な取材活動と市民の番組参加は重要だ」と話す。

また、「駅舎で流せば、待ち時間に自然に耳に入る。FMたんごを聴くきっかけにもなる」(KTR丹後大宮駅駅員・荒田典子さん)との声も聞かれる。

地域情報を発信し、まちづくりに生かす

開局3年目を迎え、今、F

Mたんごは変わろうとしている。番組改編もこのほど行った(9ページ)。

「この2年間は、リスナーが望む番組づくりへの意識が欠けていた。スタジオの中で、自分たちだけで盛り上がっていた。このままでは、リスナーが離れていく」と、宮川さんは気を引き締める。

「どれだけ地元の情報を掘り起こすことができるかがキーポイント。地域の情報を発信し、リスナーがその情報を共有することでコミュニティが生まれ、地元の盛り上がりにつながるが、この放送局の存在意義だ」(中西さん)と、スタッフたちはコミュニティ放送局が持つ得意分野を生かした番組づくりに挑戦している。



「うら嶋船」(網野町)の乗客にインタビューする中西さん



現在の使用料金収入では施設の管理費用すら捻出できないのが現状（写真：網野浄化センター）

**事業の経営改善に向け
審議会に諮問**

これらのことから、5月18日、事業の経営改善と安定的な下水道サービスの供給に向けた施策を検討するため、京丹後市上下水道事業審議会に対して、

一般会計からの多額の繰入金で、市の財政を圧迫

下水道事業は、下水道利用者が支払った料金で、事業にかかる人件費、施設管理費などを支出するという、独立採算性を原則としています。

このほど市では、京丹後市上下水道事業審議会に対し、安定的な下水道サービスを提供するための利用者負担のあり方などについて、諮問を行いました。

下水道

料金の見直しを審議会に諮問

安定的なサービス提供に向けた利用者負担のあり方など

災害

東日本大震災 対策と支援状況のお知らせ

市内経済と被災地をバックアップ

緊急対策チーム、震災の影響を市内企業に聞き取り

市では4月15日、東日本大震災による京丹後市の経済や暮らしへの影響を把握し、対策を検討するため、「東日本大震災『地域経済と暮らしの安定』緊急対策チーム」を設置しました。

チームは、産業関係から生活・福祉に至るまで、幅広い関係各課の職員で構成。4月20日の第1回会議では、現況や今後想定される影響について情報交換し、まず地域経済への影響について把握していくことを確認。4月から5月にかけて産業団体などへ聞き取り調査を行いました。

調査の結果を踏まえて、早急に取り組むべき対策として、震災による景気の動向に対応するため、事業者の経費負担の軽減と従業員解雇の予防を図る助成金の増額や人材育成緊急対策事業などを盛り込んだ補正予算案を6月定例議会に提案しました。（関連記事12ページ）

市ホームページ「東日本大震災 被災地への支援」コーナーで、市民向け、被災者向けの情報を掲載しています。ぜひご覧ください。
市ホームページアドレス：http://www.city.kyotango.lg.jp

東日本大震災に係る京丹後市の支援状況（平成23年5月26日現在）

人的支援（職員派遣）

◆緊急消防援助隊（宮城県南三陸町、延べ32人、3/11～4/2）◆給水支援（岩手県大船渡市・大槌町、延べ8人、3/16～23）、（岩手県大船渡市・大槌町、延べ6人、3/30～4/14）、（岩手県陸前高田市、延べ8人、5/13～6/1）◆医師（宮城県南三陸町・登米市、1人、4/7～17）、（岩手県三陸地方北部、1人、4/21～5/1）◆看護師（宮城県気仙沼市、1人、3/28～4/2）◆保健師（福島県会津若松市、2人、4/16～21）



多くの救援物資が届けられました

義援金

募金箱設置：各市民局、福祉事務所、社会福祉協議会（本所、各支所）
募金総額：33,806,749円（5月22日受け付け分まで）
受付期限：平成23年9月30日（金）

救援物資

市の備蓄品 アルファ米3,000食、カイロ5,000個

市民の皆さんからいただいた救援物資（全て被災地に発送）

○白米11,802㌔○水・お茶2㌔995本・500㌔㌔3,108本○カップラーメンなど1,925食○味付け海苔2,500袋○カイロ14,988個○毛布1,713枚○マスク67,417枚○肌着3,112枚○オムツ類27,885枚○一般衣類9,243点○歯ブラシ8,313本○タオル31,472枚○その他多数（缶詰、インスタント味噌汁、レトルト食品、魚肉ソーセージ、軍手、布団、バスタオル、ウェットティッシュ、トイレットペーパー、生理用品、洗濯洗剤、せっけん、靴下、パンティーストッキング、電池、ゴミ袋、車いすなど）

※物資仕分けなどの協力：延べ55人
（社協ボランティア延べ35人、網野水難救済会ほか1団体延べ20人）

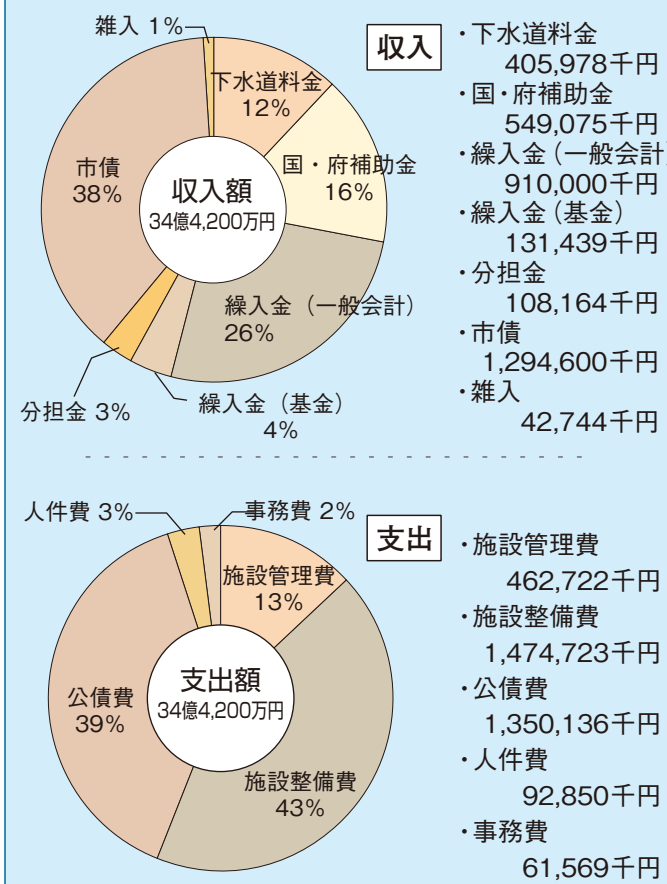
お届け先：19の自治体・団体

福島県（相馬市、会津若松市、南会津町、3避難施設）、宮城県（多賀城市、5避難施設）、岩手県（盛岡市、遠野市、宮古市、3避難施設）、茨城県（1避難施設）

（関連記事22ページ）

平成23年度下水道事業の収支状況（当初予算）

（公共下水道事業・集落排水事業・浄化槽整備事業）



**下水道接続率の
向上が緊急の課題**

利用者負担（下水道料金）のあり方などについて諮問しました。

現在、本市の水洗化普及率は65％ですが、集合処理区域内の接続率は51％と低く、水洗化の普及促進が緊急の課題となっています。

市では、接続率の向上のため、普及推進員による普及推進活動のほか、排水設備工事に要する費用への補助金制度、利子補給制度などを設け、さらには、市役所内に水洗化推進本部を設置して、さらなる水洗化の普及促進を図っています。

**平成32年度には
市内全域を水洗化に**

京丹後市水洗化計画では、地域の実情に応じて水洗化を進めるために、大きく分けて集合処理区域（処理場などを整備して汚水を集合的に処理する区域）と個別処理区域（各戸に浄化槽を設置して水洗化を図る区域）を定めています。

平成22年3月、効率的に下水道事業を完了させるため、区域の見直しを行いました。新たに策定した計画では、平成32年度には、市内全ての地域を水洗化できるように整備することとしています。



真剣な表情で網野中に避難する児童たち

網野北小 津波の想定訓練

海沿いの網野北小（高橋忠彰校長）で5月13日、大地震による津波を想定した避難訓練が実施されました。1～6年生の児童約280人が緊迫した面持ちで訓練に臨みました。

同校は海拔4.8㍎。津波発生時の避難場所として、約700㍎離れた網野中学校（3階建て）を設定。訓練は、震度6以上の地震が発生し津波警報が発令されたと想定。校内で非常用ベルが鳴り響き、地震発生アナウンスが流れると、児童たちは一斉に机の下に身を隠し、運動場に集合。点呼後、教諭の誘導により同中学校へ避難。開始から8分30秒で全員が避難を完了しました。

高橋校長は、「自分の身を守ることを一番に考えてください。津波がくると分かったら、少しでも高い所に逃げ、忘れ物をしても絶対に取りに戻らないで」と呼びかけていました。

図市災害支援対策本部（総務課内・☎69-0140）



友好締結協議書を交わす京丹後市長（左）と広島市観光協会の理事長（中央）、同市政府観光局長（右）

市観光協会では、台湾から京丹後市への誘客を図るため、台湾の高雄で毎年開催されている国際旅展（5月6～9日開催）に出展するとともに、旅行社を訪問し訪日観光先として本市のPRを行いました。

また、今回の台湾訪問を契機に、高雄市観光協会と本市観光協会が、互いの友好や観光の活性化、交流などを促進していくための友好締結協議書を交わしました。

【台湾と高雄市】

台湾の人口は約2300万人、面積は九州と同程度。台湾南部に位置する高雄市は人口約277万人で、台北に次ぐ台湾第2の都市。

昨年、台湾からの訪日観光客数は年間127万人で、訪日外国人旅行者数としては韓国、中国に次いで3番目。

観光
高雄市観光協会と協議書交わす
市観光協会、丹後をPR

市観光協会では、台湾から京丹後市への誘客を図るため、台湾の高雄で毎年開催されている国際旅展（5月6～9日開催）に出展するとともに、旅行社を訪問し訪日観光先として本市のPRを行いました。

梅雨による長雨や台風などによる風水害の発生しやすい時季を前に、市や関係機関は5月27日、市内の防災パトロールを実施しました。

市役所、府丹後広域振興局、府丹後土木事務所、京丹後警察署、市消防団などの関係職員23人が出席。網野町浜詰地内と久美浜町島地内の2カ所を巡回しました。どちらも、人家の近くに急傾斜地があり、降雨などで斜面が崩落し、土砂災害が発生する危険性が高い場所であることを確認しました。

市では今後、府がすでに実施している危険箇所調査結果を参考に、具体的な対策案について地元区と協議、検討することとしています。

防災
急傾斜地を確認
防災パトロールを実施



急傾斜地を入念に確認する関係者（久美浜町島地内）



地引き網漁を体験する相楽小6年の児童たち（平海水浴場で）

この日訪れた児童は、網野町の田勇機業（株）で丹後ちりめんの製造工程を見学した後、平海水浴場で地元漁師さんの指導を受けながら地引き網漁に挑戦。約100人が沖合に仕掛けられた網を「ヨイショ、ヨイショ」と、息を合わせながら引き上げました。

歓声を上げながら引き揚げられた魚をつかんでバケツに入れたり、記念撮影をしたりするなど、日ごろ体験できない地引き網漁を堪能しました。

交流
相楽小児童が修学旅行で来丹
地引き網漁体験を堪能

平成20年1月に友好都市盟約を締結した木津川市にあるの相楽小学校の6年生55人が5月19日、修学旅行で平海水浴場（丹後町平）を訪れ、地引き網漁など、京丹後市の魅力を体験しました。



推進員に筋肉トレーニングを指導する講師の松井さん（右）

健康
健康づくり推進員100人が研修
筋トレ運動で体づくり

5月24日、峰山総合福祉センター（峰山町）で市健康づくり推進員の研修会（昼と夜の部）を開催しました。

（有）ヒューマンモア代表で運動コーディネーターの松井浩さんが「楽しく効果的な運動、そして運動継続の秘訣」と題して講演。

参加した約100人の推進員は、松井さんの楽しいトークに笑みをこぼしながら筋力トレーニングを学びました。松井さんは「自分や将来の子どものために、元気に運動してほしい」と呼びかけました。

【京丹後市健康づくり推進員】市民の「自らの健康は自ら守る」意識を高め、地域での健康づくり活動を積極的に推進します。（平成22年3月設置）

財政

一般会計補正予算（第1号）案を提出

5億5,410万円を追加

5億5,410万円を追加し、予算総額318億1,910万円とする平成23年度一般会計補正予算（第1号）案を、5月31日開会の6月定例議会に提出しました。

主な補正内容を紹介します。（カッコ内の金額は補正予算額）

【東日本大震災関係】

- 東日本大震災災害支援活動補助金（300万円）
市内の団体が行う被災地および被災者への支援活動に対し補助（10万円以上の事業費を対象とし、50万円までは全額、50万円を超える分は3分の2を補助。ただし、上限100万円）
- 災害見舞金等事業（60万円）
被災地から本市に避難し居住する世帯に1世帯当たり10万円の見舞金を支給
- 地域防災計画の見直し（541万円）
津波対策や原子力発電所事故関連の項目を見直すもの
- 沿岸域の避難所の高所計測（323万円）
津波襲来時に住民の避難場所選定の参考にするため、沿岸域の避難所の高さを計測し、「避難所高標識板」を設置（54カ所を想定）

相談

自殺ゼロ実現推進協議会

自殺予防キャンペーンを展開



街頭啓発を行う推進協議会委員（左）

市自殺ゼロ実現推進協議会（会長：中山泰市長、委員17人）は5月30日、峰山町のショッピングセンター前で、自殺予防キャンペーンを展開しました。

同協議会が掲げる「自殺ゼロ実現」に向けての取り組みで、委員ら13人が参加。買い物客などにチラシや啓発物品を配布し、「一人で悩まずに相談を」と呼び掛けました。

同協議会では、年4回のキャンペーンのほか、市のホームページや広報紙などを活用して、啓発活動を強化することとしています。

- あんしん雇用環境づくり事業（1,600万円）
東日本大震災の影響などによる景気の変動（悪化）に対応する（備える）ため、事業者の経費負担の軽減と従業員解雇を徹底予防するための中小企業緊急雇用安定助成金を増額

【その他の主な新規事業】

- 保育所施設耐震化事業（1億8,532万円）
耐震診断で補強が不可能と判定された保育施設などについて、市保育所再編等推進計画に基づき仮設保育所の設置や通所替えを実施
〔仮設保育所設置〕峰山地域：吉原、長岡、新山、丹波保育所
◇久美浜地域：湊、神野、田村保育所
〔通所バス購入〕峰山地域4台
◇弥栄地域2台◇久美浜地域2台
- 共に育む命の里事業（1億1,279万円）
里力再生計画に基づき、地区が取り組む生活環境基盤や農業生産基盤の維持保全活動を支援
・生活環境基盤整備事業（3,179万円）
〔対象地域〕大宮町五十河地域、久美浜町神野地域
・農業生産基盤整備事業（8,100万円）
〔対象地域〕大宮町五十河地域、丹後町宇川地域、久美浜町神野地域



市民
自衛隊と地域とのパイプ役
自衛官募集相談員に12人を委嘱



委嘱を受けた相談員の皆さん（峰山総合福祉センターで）

自衛官募集相談員

（50音順・敬称略）

氏名	住所	電話番号
安達 健一	網野町網野	72-5352
塩谷 良樹	丹後町久僧	76-0152
田中 英一	網野町木津	74-1264
坪倉 義美	弥栄町鳥取	65-3141
中井 勇	久美浜町	82-0341
平田 祐志	弥栄町堤	65-3531
藤村 昇	峰山町荒山	62-2867
松尾 信介	網野町掛津	72-3369
松本 経一	大宮町周枳	64-2363
松本 信之	峰山町久次	62-0022
森口 茂樹	丹後町間人	75-0344
吉岡 暁	久美浜町浦明	83-0807

自衛隊京都地方協力本部と市では、5月24日付けで「自衛官募集相談員」に12人を委嘱しました。任期は2年間で、自衛官を志すかたへの情報提供やアドバイス、広報活動などを行います。

子宝を願う、のぼり立て

100年以上前から大宮町三重に伝わる奇習

毎年5月4日夜～翌朝



使い古した日用品を使って

大宮町三重地区に、100年以上前から伝わる奇習がある。毎年5月4日に、この一年間で誕生した新婚夫婦の子宝を願って行う「のぼり立て」だ。

夜9時、住民らは、使い古した日用品などを持ち寄り柱にくくって立てる。新婚夫婦と家族は、家の明かりを全て消し、屋内から出ないのが習わし。

戸外では、のぼりを立てる間、住民の一人が「キー、ギーコ」と木をこすり合わせて奇怪な音を出す。これは、夫婦の営みで新たな命が宿ることを表現したもの。また、のぼりを固定するために打ち込んだ杭の形によって、生まれてくる子の性別を占うと伝えられている。農業を手伝う子どもも願って

まりの時期は定かでない。ただ、三重集落には農家が多かった。農業を象徴する「肥たんご」（注）や「除草機」をぶら下げて、農業を手伝う元気な子の誕生を願ったのが始まりだろう」と話す。

「子の誕生を願うものの、外出禁止にしたり、古びた物をくくりつけたりして困らせる。もしかすると、新婚さんを冷やかし、うらやむ一面もあるのかもしれない」と糸井さんはいたずらっぽく笑った。

（注）肥たんご…ふん尿を入れて運ぶおけのこと 肥おけ

高さ10mを超えるのぼりを見上げる糸井健さん、ちひろさん夫妻

フォトグラフ

1 5月4日の夜9時から、住民らが力を合わせてのぼりを立てる 2 糸井照雄さんは、のぼり立ての間、木をこすり合わせて奇音を出す 3 翌朝、住民らは柱にくくった自転車などを降ろして片付けを手伝う 4 柱から、ジョウロやバケツをほどき取る（邦佳さん夫妻） 5 河島さん宅ではほうきやむしろを返却。こうして近所との懇親を深める（健さん夫妻）



今年は2組の新婚家庭に

今年は、昨年9月に結婚した糸井邦佳さん、恵美さん夫妻と、同11月に結婚した糸井健さん、ちひろさん夫妻の家にのぼりが立てられた。

5月4日夜9時、新婚宅の庭先には、バケツ、椅子、看板、自転車など使い古しの品々が並ぶ。集落の住民約30人は、品物を柱にくくりつけ、傘を頂点に高さ約10mののぼりを立てた。

翌5日は「子どもの日」。朝、健さん夫妻は高々とあがったのぼりを見上げて子宝を願った。その後、

隣人らと一緒にのぼりを降ろし、近所を訪問して日用品などを返却した。ほうきなどを返却した河島隆雄さん宅では、「ありがとうございました。よろしくお願いします」とあいさつ。河島さんから、「元気で立派なお子さんを産んでください」と歓迎を受けた。

健さんは、「地域になじむいい機会になるし、とてもいい風習だと思います」と感謝の気持ちを語った。妻のちひろさんは「ちょっとはずかしいけど、地域のかたに歓迎されてうれしいです」とほほ笑んだ。

ギャラリー

過去に立ったのぼりを一部紹介します



今年、糸井邦佳さん夫妻宅に立てられたのぼり



こだわりの庭づくりを楽しむ女性グループ（5月24日、川口匡美さん（右から2人目）宅庭先で）

庭先で満開の花を楽しむ

大宮町でオープンガーデン

5月24日

大宮町奥大野を中心に、花が咲き誇る4月末から5月末までの間、自宅の庭を解放する「オープンガーデン」が開かれました。

この取り組みは、庭先のガーデニングを地域のかたに気軽にてもらえるようにと、川口匡美さん（大宮町奥大野）が、地域の花好きな主婦に呼びかけ6年前から行っているものです。当時は4人で始め、現在は17人に。京丹後オープンガーデンネットワークとして、庭先に「OPEN」と書いた木製の看板を掲げて、一般のかたも自由に見学できるようにしています。

川口さんは「多い日には40人くらいの人が見に来れます。毎年同じ庭はできませんが毎年違った庭づくりができるのも楽しみの一つです」と話していました。



高齢者大学入学式の様子（久美浜公会堂で）

新入生35人が講演聞き入る

久美浜町高齢者大学入学式

5月28日

久美浜町高齢者大学の入学式が5月28日、久美浜公会堂（久美浜町）で開かれ、町内の高齢者35人が入学しました。式では、入学生代表の稲田功さん（同町奥三谷）が「1年間楽しく続けられるように頑張ります」とあいさつ。その後、京都嵯峨芸術大学の坂上英彦教授が「NPO法人わくわくする久美浜～久美浜町の再生にむけて～」と題した講演を行いました。外部の活力を誘導することや高齢者の役割などの話しに、新入生らは熱心に耳を傾けていました。

《アユ釣りの解禁》

上宇川漁協は6月26日から。野間漁協は7月10日から。



稚アユを野間川に放流する野間小児童たち

野間川に稚アユ3万匹放流

野間小児童や同志社大生らも協力

5月16日

アユの放流は、自然環境の保護やアユの生息数維持が目的で、弥栄町の野間川では野間漁協（羽賀明博組合長）が、丹後町の宇川では上宇川漁協（倉岡澄男組合長）が4月下旬から5月中旬にかけ毎年実施しています。

5月16日、野間地域住民と同志社大の学生、野間小児童ら30人が、稚アユ約3万匹を弥栄町の野間川に放流しました。

今回の放流は、府の地域力再生事業の一つで野間地区が主催。野間漁協の協力により琵琶湖産の稚アユ約3万匹が届けられると、野中橋（弥栄町野中）付近の野間川で野間小の全児童7人と同志社大の学生10人、野間地域住民たちが、体長10～12センチの稚アユを「元気に育って」と丁寧を送り出しました。



応援メッセージ看板を設置した丹波小6年生の児童たち

網野町で「うら嶋船」の運航始まる



浦島伝説、静御前にまつわる伝承を紹介

丹後町の「とび丸タクシー」、久美浜町の「遊覧船」に続き、網野町では、海岸を巡って絶景楽しむ遊覧船「うら嶋船」がこの5月から運航を開始しました。網野町のジオサイトなどが海上から存分に楽しめます。

昨年6月、地元旅館女将の大町益美さんが「浅茂川でも海上から山陰海岸ジオパークの風景を楽しんでもらいたい」と地元漁師に運航を打診。市観光協会網野支部などの協力も得て、今回の運航が実現したものです。

浅茂川漁港を発着点に網野町の海岸沿い約12キロを約1時間かけて巡ります。遊覧船には遊漁船を活用。波で磨かれ五色の光を放つ小石からその名が付けられた「五色浜」のジオサイトや浦島伝説にまつわる「万畳の岩」、静御前が源義経を見送った場所と伝えられる場所「涙岩」などを楽しめます。

9月末まで運航。要予約。料金は中学生以上1,800円、小学生以下900円。申し込みは市観光協会網野支部（☎72-0900）へ。



ジオサイトを眺めることができる「うら嶋船」

震災被災地へ想いを届け



丹波小全校児童91人が応援メッセージ

5月18日

地域の人たちに震災の復興支援について考えてもらおうと、丹波小学校（峰山町・山口圭一校長）の6年生が5月18日、東日本大震災の被災地へ向けた応援メッセージを書いた立て看板を校内のグラウンドに立てました。

5月初旬、同小の1年生から6年生までの91人は「東日本大震災の被災地に対してみんなで何かできないか」と、看板づくりに取り組みことを決めました。製作した10枚の看板には、ヒマワリの絵や鶴などの貼り絵をあしらひ、「みんなで助け合ってえがおをとりとどそう」などのメッセージが書かれています。

梅田朱里さん（6年生）は「一人ひとりが気持ちを込めて作った」と力作に自慢げ。門中美月さん（同）は「看板を見て、この地域の人にも被災地について考えてもらえる機会にしてほしい」と呼びかけていました。



学生ボランティアら地元農家の手ほどき受け

再生した棚田で50人が田植え

5月14日

丹後町袖志の棚田で5月14日、学生ボランティアたち約50人が田植えをしました。休耕田となっている棚田を復活させ、「美しい景観を取り戻そう」と昨年からはまった棚田再生プロジェクトの取り組み。今年は地元住民たちで結成した「袖志棚田保存会」（平井貞雄代表）の主催で行われました。

作業には、市内外のボランティアや府立大など7大学の学生が参加。昨年再生した2枚（計8㌥）と今年新たに復元した5枚（計5㌥）の田んぼに横一列に並び、地元の農家の手ほどきを受けながら、もち米などの苗を手作業で植えていきました。

京都大2年の向井潤さんは、「田植えや交流会を通じて、農村の良さや人と人とのつながりの重要性を改めて実感した。棚田の保全や袖志の魅力発信に少しでも力になれば」と話していました。

同会では、収穫したもち米で作った餅を、東日本大震災の被災地の子どもたちに届けることとしています。



今年再生させた田んぼで、田植えをする参加者たち

障害者のかたにも満足な治療を

市立久美浜病院
診療部長
歯科口腔外科部長



市立久美浜病院
診療部長
歯科口腔外科部長

ほり しんすけ
堀 信介



今回は、久美浜病院の堀部長に、障害者のかたへの治療を通じた歯科口腔外科の役割について聞きました。



久美浜病院の歯科口腔外科ってどんなところ？

私が市立久美浜病院の歯科口腔外科に赴任してから5年が経ち、これまでに多くの患者さんを診察してきました。

平成22年度の治療実績は、口腔腫瘍、顎関節、智歯（親知らず）、抜歯などで、全身麻酔手術が216件、入院患者数が延べ2,613人です。京都府北部の口腔外科疾患専門的治療の基幹病院として、さらに充実した医療を目指しています。

そんな歯科口腔外科が担う大きな役割の一つに障害者のかたへの治療があります。ハンディのあるかたも安心して治療を受けられる環境を整えて、口から始める健康づくりに貢献したいと思っています。



虫歯治療をする上で、問題点はありますか？

統計的に障害者のかたは、先天的な歯の形の異常や歯並びが悪いかたが多く、歯磨きがうまくできないことが多いので、虫歯になりやすいといわれています。また、治療中に不随意運動（意思に基づかない運動）が生じることがあり、長時間同じ姿勢でいることが難しいため、治療に時間がかかります。その結果、虫歯や歯周病が放置され、重症化することもあります。

私たち医師との意思疎通ができないときには、治療の際に防御ネット（患者の安全を確保するために体を固定する器具）や開口器（強制的に口を開ける器具）を用いることもあります。しかし、そのときの恐怖で深く心が傷つき、病院へ行くことを強く拒否することもあるため、患者さんが安心して治療に専念できる環境をつくる必要があります。



虫歯を効率的に治療する方法はありませんか？

はい、あります。

ただ、まずは虫歯にならないことが大切です。私たちは、虫歯の予防のために、介助者も含めた歯磨き指導、フッ素塗布に加えて、間食や偏食などを改善するための食育教育も積極的に行っています。

虫歯になった場合、障害者のかたや家族のかたからは、「短期間で一度に多くの虫歯を治療してほしい」、あるいは、「障害者の拠点となる歯科専門的治療施設を設けてほしい」などの声を多く耳にしてきました。

全身麻酔を利用した治療では、障害者のかたの治療に対する恐怖心や不安を取り除き、一度に多くの虫歯を治療することができます。



久美浜病院でも、全身麻酔を利用するなど、患者の不安を軽減した治療ができますか？

はい、できます。

久美浜病院は市民病院として、障害者のかたの受診環境を積極的に整える責務があります。

当院では、京都府立医大の麻酔医の協力により、昨年度から全身麻酔や静脈内鎮静法（薬で眠らせる方法）による治療を行っています。この方法により、患者さんの痛みや恐怖心を取り除き、短期間で安全に複数の虫歯を治療できます。虫歯の進行程度にもよりますが、1日で8歯の治療が完了したケースもあります。自閉症、脳性まひ、発達障害など、診療室での治療が困難なかたにも有効な治療方法と考えます。

さらに、重度障害者や脳血管障害などで寝たきりになってしまった患者さんには、訪問治療（往診）も行っております。



治療は、本人だけでなく家族のかたにも精神的な負担を与えます。

悩まずに、まずはご相談ください。

〈お問い合わせ先〉
久美浜病院（☎82-1500）



和風作りでは、櫓を砕き（写真右）、紙すき（写真左）をして紙の風を作ります

「ふるさとミュージアム」の活動は、世代を超えたふれあい交流と地域文化の伝承を目的としており、今年で15回目を迎えます。昨年は約300人もの親子がものづくり体験に参加しました。今年も、例年の「勾玉作り」「そば作り」「紙すき」と正月行事に加え、新たに「和カンジキ作り」にも挑戦します。親子でふるってご参加

今年は「和カンジキ」作りにも挑戦

ください。また、お手伝いをしていただけるボランティアの方々も大歓迎です。

募集内容

募集案内は小・中学校に配布しますので、要項に従って申し込んでください。

・「勾玉を作ろう～勾玉作りに挑戦～」
日程 7月30日・31日（各日 午前・午後の部）
定員 160人（各回40人）

・「そばを作ろう～耕作・種まきから刈り取り、石臼挽き・そば打ち～」(全6回)
日程 ①草刈り7月23日 ②焼畑8月6日
③種まき8月20日 ④刈り取り10月29日
⑤脱穀11月12日 ⑥そば打ち12月18日
定員 30人

・「風作りと正月行事～紙すきから和風作り、風揚げ大会・餅つき大会～」(全3回)
日程 ①紙すき12月3日 ②風作り12月17日
③風揚げ大会・餅つき大会1月7日
定員 30人

・「和カンジキ作り～材料の刈り取り、皮剥ぎ・成形、形組み～」(全3回予定)
日程 10月以降
定員 30人



和カンジキは、丹後で必須の道具です。

各体験の参加費用は、材料代(500円～1000円程度)が必要です。参加者多数の場合は抽選により決定します。

〈お問い合わせ先〉ふるさとミュージアム丹後（府立丹後郷土資料館）（☎0772-27-0230）

京都府の
ひろば

Since 2008.09

京都府で取り組んでいる市民生活にかかわる事業などについて紹介しています。

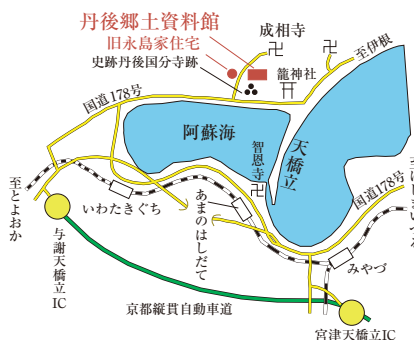
地域文化の継承と世代間交流を

ふるさとミュージアムジュニアクラブ参加者募集

府立丹後郷土資料館



ものづくり体験は、府立丹後郷土資料館で行います。当館では京丹後市内から発掘された縄文土器など多くの文化財を常設展示しています。ぜひ、体験活動と併せて館内をご覧ください。新たな発見がありますよ！



国民文化祭・京都2011

開催まであと
141日
(6月10日現在)

マスコットキャラクター
PR隊長「まゆまる」



平成元年12月から21年間にわたり、地域住民への相談、支援活動を推進してこられた皆さん。(注)「民児協」とは民生委員児童委員協議会の略です。



安田 一さん
(久美浜町葛野)

【元民生委員・児童委員】

平成16年12月から久美浜町民児協の会長に就任。専門部会の確立など協議会の発展に寄与するなど、その功績が評価されました。



岩 啓子さん
(久美浜町関)

【元民生委員・児童委員】

平成19年12月から久美浜町民児協の副会長に就任。会長を補佐し協議会の発展に寄与するなど、その功績が評価されました。



岡田 佐代子さん
(峰山町杉合)

【元民生委員・児童委員】

平成13年12月から峰山町民児協の副会長に就任。会長を補佐し協議会の発展に寄与するなど、その功績が評価されました。

日本河川協会 河川功労者表彰(団体)

同会は昭和57年4月に設立。現在14人で竹野川(大宮町森本～丹後町間人・約6,000㎡)などの清掃活動に取り組んでいます。平成18年から、上流域と下流

域の住民と一緒に、ゴムボートやカヌーを使い、竹野川を清掃。河川の清掃などを通じて自然保護に貢献するなど、その功績が評価されました。



森本村づくり委員会と大山青壮年会、エコネット丹後が協力して、竹野川の清掃活動を実施(平成22年8月)

大山青壮年会(丹後町大山)
平井隆雄会長



丸山 昇次郎さん
(丹後町間人)

【漁業者】

20年以上にわたり、丹後町間人海岸の清掃美化活動に尽力。「海」の汚れに心を痛め、積極的に海岸のごみ回収を行っています。その姿は、他の模範となるなど、その功績が評価されました。

みんなの 声

福田川河口付近の 不法係留に対する指導は

網野町の福田川河口付近に係留されている船舶は、ほとんどが不法係留と聞きました。

【住所不明・年齢不明・男性】
府プレジャーボート等係留対策協議会で対策を進めます

福田川の管理者である府丹後土木事務所が調査したところ、河口付近から上流にかけて86隻の放置艇が確認されました。これらの放置艇をなくすため、「京都府プレジャーボート等係留対策協議会」では、啓発看板の設置やパトロールの実施などの取り締まりを強化するとともに、船の暫定係留の可能性などを検討することとしています。

【建設部管理課】

木村次郎右衛門さんが 男性長寿世界一に

「男性長寿世界一」誕生おめでとうございます。4月19日の朝刊で知りました。暗いニュースが多い中、ほっとするニュースですね。多くの市民の皆さんへ知ってもらえるようアクションを。

【住所不明・年齢不明・男性】
【長寿福祉課】

とても喜ばしく、広報きょうたんと5月号で、ご紹介しました

ふるさと 応援団 話



行待 明夫さん(89歳)
京都市北区在住
京丹後市出身
京丹後市で応援大使

「京丹後ふるさと応援団員」の皆さんからお寄せいただいた 故郷に対するさまざまな想いをお届けします。

「故郷」。何という懐かしい言葉であろう。故郷を離れて久しい私にとって、少年時代の思い出は、またとない私の人生の宝なのだ。長い人生のなかで少年の日の思い出は鮮やかによみがえる。

追憶の扉を開く

私は、大正10年に竹野郡溝谷村(現・弥栄町溝谷)で生まれた。小学校卒業後は進学のため、宮津、東京で学生生活を過ごし、太平洋戦争復員後は京都府庁に入り、定年まで勤めた。

退職後は企業診断士、行政書士として、第二の人生を歩んでいる。私の父は教育者で、その教育環境は厳しかった。しかし、余暇には、無心に当時の美しい山野を駆け巡り、雪が積もればスキーに熱中した。四季を通じて

新鮮な野菜に恵まれたことは、現在の健康の源泉であると感謝している。毎年故郷の季節は巡り、春には溝谷橋のたもと桜がらんと咲き誇り、電飾に映える夜景は素晴らしかった。夏には溝谷橋上の川風の涼が、近所の人たちの和やかな社交場であった。秋には溝谷神社の祭礼があり、翌日は村民運動会が催された。それが終われば、村民たちは実りの収穫農作業に忙殺される。

冬の12月14日は、青年団の赤穂浪士の忠節をたたえる演劇「義士会」が公会堂で演じられた。その、玄人がはだし、の熱のこもった名演技に、村人たちは感嘆と感動を惜しまなかった。

しかし、このようなどかな春夏秋冬の行事とは別に事件が発生した。昭和2年3月7日、午後6時27分、丹後地方を襲った丹後大地震(マグニチュード7.3、死者2925人)。突然海鳴りのような響きと同時にグラグラと激震が走り家が揺れ動いた。電灯が消えて漆黒の闇となった。

「地震だ」。父は私を背負い雪明かりの道を駆け出した。関東大震災の光景を絵本で知っていたが、寒さと怖さで震えが止まらなかった。そのときの恐怖は、いまだに忘れられない体験である。

広報クイズの応募はがきから

▼5月号の京丹後人⑬の「レストス城おばちゃんスタッフ」心から応援しています。

▼自分の住んでいる町でも知らないこともたくさんあると気付く。広報きょうたんごはいきつかけになります。

▼私は木村次郎右衛門さんと誕生日が同じです。木村さんの年齢までには、半世紀以上も。なんだか未来に希望が出てきました！

▼久美浜一区の街並みは、かつて郵便配達でお世話になった場所です。過ぎし日の、ノスタルジアを感じます。

▼5月号で、毎日歩いている地元の久美浜一区が特集されていました。写真です！いつも風景を四角に切り取るとこんなに素敵だったんだと改めて感じました。記事を読んで二度びっくり！たくさんある中途半端な三差路は城下町の名残だったんですね。車ではちょっと困ること多いですが、

▼昔「スポーツ一家」といわれていたわが家も今はできなくなり、スポーツ関係の記事を楽しむだけです。スポーツのできるかたは思い切り楽しんでください。

▼相変わらずレスリングが熱いですね。暖かくなってスポーツが盛んな時季になりました。若いパワーで頑張ってください。

▼情報豊かな広報「きょうたんご」。毎月

楽しみにしています。特に表彰のコナーは念入りに読んでいます。また、図書館だよりで紹介(大人向け)している本を読んでみたいですね。「心の栄養」として。

▼北近畿タンゴ鉄道(KTR)が開業21周年を迎えました。僕は、KTRで通学しているので、とても大切な鉄道です。今、KTRは厳しい状況下にありますが、沿線地域の住民が一人でも多くKTRを利用することによって、この状況を打破することができると思っています。この市報でKTRの現状について取り上げていることはとてもよいことだと思います。

▼「みんなでKTRを考える住民シンポジウム」(5月22日開催)に参加しました。KTRの現状報告の説明を聞いて、「このままではいけない、私たちが自身がまず行動を起こすことが必要だ」と感じました。

▼5月号の市政トピックスの「地域の足『確保へ検討開始』」を読んで、マイカー通勤をやめて、KTRを利用するべきです。

▼1歳の娘にヒジやヤギを見せてあげたいので、ふれあい広場に行ってみようと思います。

▼広報クイズに応募しました。その初めての応募が当選とは…。こんなことになるのは夢にも思わなかった。驚きました。小学生のころ母が読んでいた婦人雑誌のクイズに当選し「24色クレヨン」をもらいました。学校でみんなにうらやましがれたことを思い出しました。美しい図書カード、記念にとっておきます。

いのち きずな 生命の絆

生まれてきてくれてありがとう

A bond of life

このコーナーでは、弥栄病院で赤ちゃん誕生の瞬間を喜びご家族の姿を紹介します。詳しくは秘書広報広聴課「生命の絆」係まで 《お問い合わせ》 ☎69-0110



お姉ちゃんと一緒に 元気 いっぱいに
おだててね。

志水 優種ちゃん(女の子)
4月生まれ・2,528グラム
母:美咲さん 父:智哉さん
(網野町網野)



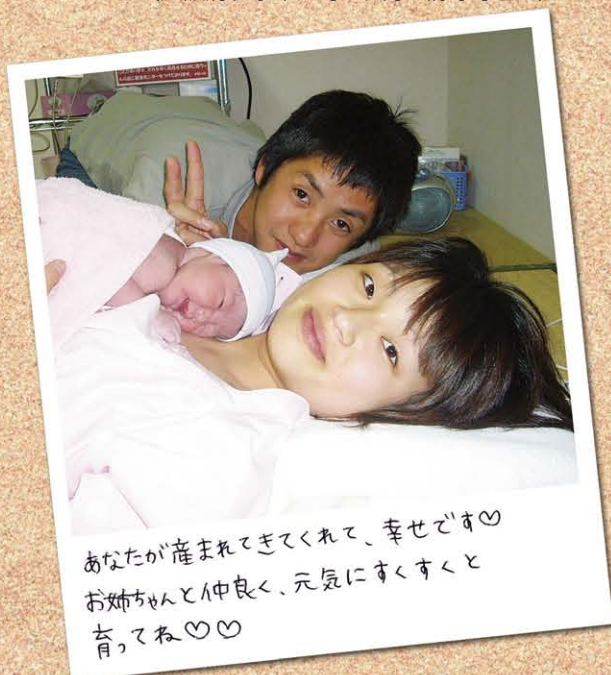
泰ちゃん、
すくすくと元気いっぱいになってね。
生まれてきてくれた 本当におめでとう！

杉本 奏ちゃん(女の子)
4月生まれ・2,318グラム
母:美奈さん 父:憲保さん
(大阪府和泉市/母の実家:網野町塩江)



生まれてきてくれた
ありがとう。

安達 諒ちゃん(男の子)
4月生まれ・3,910グラム
母:朋子さん 父:徹さん
(久美浜町栢谷)



あなたが産まれてきてくれて、幸せです♡
お姉ちゃんと仲良く、元気にすくすくと
育ってね♡♡

金森 琴葉ちゃん(女の子)
5月生まれ・3,038グラム
母:美穂子さん 父:政典さん
(弥栄町芋野)

「絆フェスタ」に700人

スポーツで世代間の交流深める

5月8日、八丁浜シーサイドパーク(網野町)で、「絆フェスタ」が開催されました。世代を超えて一緒にスポーツをすることで、世代間や家族の絆を深めてもらおうと網野スポーツクラブなど3団体が主催。約700人が参加しました。開会式で、守屋祐城君(12)、引野昇真君(15)、山下太希君(17)の3人が小中高生を代表して「家族の絆、仲間の絆、地域の絆を大切にして、成長します」と力強く宣言しました。網野サッカークラブのコーチ・河田貴之さんは、「技術の指導だけでなく、子どもから大人まで一緒にワイワイとサッカーができる貴重な場。楽しみながら多くのかたと交流でき、絆が深められてありがたい」と話していました。



年齢を問わず一緒にフットサルをする参加者



体をいっぱい使って玉入れに挑戦する子どもたち

GSゲートボール 川上チームが優勝

5月17日、大山山村広場(丹後町)で、第16回グランドシニアゲートボール大会が開かれました。22チームの頂点に輝いたのは、川上チーム(久美浜町)で、花水木チーム(峰山町)が2位、神野チーム(久美浜町)が3位と続きました。この大会は、高齢者間の交流や体力・技術の向上などを目的に、京都府ゲートボール連合会京丹後支部が主催したもの。77歳以上のかたを対象としたゲームに、130人余りが参戦。熱い戦いが繰り広げられました。真剣なまなざしでプレーする参加者



久美浜湾でジュニアカヌー春季大会

5月14日、久美浜湾カヌー競技場で、小中学生のジュニアカヌースプリント春季大会が行われ、児童生徒約50人がタイムを競いました。

(注)右表のK1はカヤックシングル、K2はカヤックペア、C1はカナディアンシングルを表す。また、和ジはB&G和知ジュニアカヌーチーム、和は和知中学校、久は久美浜中学校を表す。
力強くパドルを漕ぐ選手たち



図書館だより



今月のおすすめ

■おこんじょうりり 子ども向け

さねとうあきら／著 (理論社)



イタコのばばさまに「じょうりり」を語って恩返しするきつねのおこん。ばばさまときつねのやさしい気持ちひしひしと伝わり、読み手の涙を誘います。喜びと悲しみが一体となったストーリーは、本を閉じても長く余韻が残ります。子どもさん、お孫さんに読み聞かせてほしい1冊です。

読書ができる環境を
子どものときにたくさん
の良本に出会い、読
書を楽しむことは、子
どもが人生をより深く生
きていく上で欠くことので
きない大切なことです。
現代の子どもたちは、情
報メディアの発達や普及
により、読書離れが進ん
でいます。
子どもたちが自主的に
読書活動できる環境をつ

くるために、「子どもの
読書活動の推進に関する
法律」が定められ、4月
23日が「子ども読書の日
に定められました。
この日を中心に、全国
でさまざまな取組みが行
われています。図書館で
は、この日に限らず、日
常の生活の中に読書を取
り入れ、心豊かな毎日を送
っていただくことを願
っています。
(市立図書館)

広報クイズ



- 問1 6月で開局2周年を迎えた「FM〇〇〇」79.4MHz
問2 KTR宣言のスローガン「乗ってつなごう、未来の〇〇〇たちへ」
問3 久美浜の遊覧船、丹後のとび丸タクシー、網野の〇〇〇船

◆応募方法

はがきに ①クイズの答え(○の中に入る数字や文字) ②住所 ③氏名(ふりがな) ④年齢 ⑤電話番号 ⑥広報紙の感想やイラストなどを明記して、秘書広報広聴課まで(宛先は裏表紙を参照)。なお、いただいた感想やイラストは広報紙に掲載することがあります。 ※⑥番目の項目も忘れず明記ください。

◆開館時間／10時～18時
(峰山・あみのみ水曜は19時まで)
毎週月曜・毎月1日は休館日
(土日祝日と重なる場合は翌日)
◆貸出／1人20点まで・2週間
◆問い合わせ先／
峰山図書館 (☎62-5101) 大宮図書室 (☎69-0672)
あみの図書館 (☎72-4946) 弥栄図書室 (☎65-2101)
久美浜図書室 (☎82-1771) 丹後図書室 (☎69-0664)

6月図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	7/1	2
3	4	5	6	7	8	9

■身代わり右近 大人向け

三宅登茂子／著 (廣済堂文庫)



幕府の隠密・一柳右近が、萩藩の存亡に関わる密書を携えて死んでいた。藩は、右近そっくりの身代わりを幕府に送り込み、幕府の意図を詮索する。単なる身代わり役だった丑之介が、右近になりきろうとする中で成長していく過程を描いた作品。京丹後市出身の気鋭作家による長編力作。



おりがみ教室では、思い思いの鯉のぼりをつくりました

「子ども読書の日」を記念しておはなし会を開催

4月23日と29日に、峰山図書館、あみの図書館、丹後図書室では「子ども読書の日」を記念して、おはなし会を開催しました。大型絵本の読み聞かせやパネルシアター、エプロンシアターなどでおはなしを楽しんだ後、工作教室やおりがみ教室も開催しました。和やかな雰囲気の中で、子どもから大人まで、楽しい時間を過ごしました。

◆5月号の答え

- ①114 ②うなぎ ③ふれあい

◆5月号当選者 おめでとうございます！

- 🌸 足立 弘子さん (峰山町四軒)
🌸 大久保 里美さん (丹後町間人)
🌸 小倉 幸子さん (大宮町三坂)
🌸 小西 みつ子さん (久美浜町)
🌸 堀 浪子さん (峰山町長岡)

◆締め切り

6月24日(金)当日消印有効。当選者の発表は来月号のこのコーナーで。
応募総数26人、正解者数23人でした。
たくさんのご応募ありがとうございました。



学術的にも価値の高い宝篋印塔

今回は、網野町島津の蓮華寺にある宝篋印塔を紹介いたします。
宝篋印塔とは、中国の「宝篋印陀羅尼經」というお経を納めた供養塔で、平安時代の終わりごろから造られ始めました。
この宝篋印塔は、昭和39年に全戸離れた尾坂地区の尾坂寺から島津地区内に移され、現在は蓮華寺に保管されています。
地区は、網野町三津の網野最終処分場から、さらに山道をあがった所にあります。
宝篋印塔は、基礎の部分が幅55センチ、全体の高さが165センチで、室町時代(今から500年ほど前)に造られたと考えられています。気品高く、すぐれた石造文化財であるとともに、この時代の

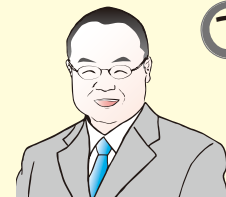
室町時代の文化伝える

り、天文7年(1538年)に書かれた『丹後国御檀家帳』には、「おさか寺中の坊 大なる城主なり 国のゆみやとりなり」と記されています。この記事から、戦国時代には尾坂寺が城として使われており、重要な役割を担っていたことがわかります。
尾坂地区の離村により、本尊の観音菩薩立像(京丹後市指定文化財)は徳運寺(丹後町徳光)へ、宝篋印塔は蓮華寺へと移されました。
宝篋印塔は、本尊の観音菩薩立像とともに、尾坂寺の様子を伝える貴重な資料として昭和51年3月1日付で網野町指定文化財に指定され、現在は京丹後市指定文化財となっています。
(文化財保護課)



市長インタビュー

和氣 泰来



▼先日、「みんなでKTR(北近畿タング鉄道)を考える住民参加シンポジウム」に本市をはじめ多数の沿線住民の皆さんが参加され、KTRを巡る厳しい経営状況や困難な課題を広く住民の皆さんと共有することができました。
▼「困難」といえば、かつて主力工場が本市にあり、モーターの分野では今や世界をリードする日本電産(株)の永守社長さんが、3年前に来丹された講演の中で、「困難の中にこそビッグチャンスがある」「困難は必ず解決策を一緒に連れてくる」「それ故、私は困難に礼をもって接し、困難さん」と呼んでいる」と座右の信念を披露され、会社躍進の真髓にふれる思いで大変感銘を受けたことを思い出します。
▼今、KTRを巡る厳しい状況に直面して、私たちにも困難な中での開拓的、挑戦的な姿勢が問われています。そもそも、KTRは公共財。一事業体

困難は解決策を一緒に連れてくる

の絶好の機会としていきたいと思ひます。
▼週1回利用のかたは、さらに加えて週1回。月1回のかたは、さらに年1回。年1回のかたは、まずは年1回、と「ワンモア」の努力をみんなで見ましょう。
▼沿線住民の皆さんで、KTRのさらなる利用へと歩みを踏み出し、宝を未来に万全につないでいくため、さあ行動を起こしましょう！
京丹後市長 中山 泰

としての経営の自律性ももちろん大切ですが、道路とあわせKTRがあるから多くの人が住め、多くの企業や病院なども立地し、防災のセーフティネット、さらにはエネルギー効率の高い環境にやさしい社会の形成にも貢献します。経営の効率性の問題をはるかに超えて計り知れないほどの公益的な便益を運んでくれる、まさに社会の公器であります。
▼現在の困難な状況の中で、改めて、KTRは私たちにとって愛しくかけがえないパートナーであることを見つめ直す機会となり、そんな価値の共有を広げながらますます利用を進め、人の交流やまちの活性化、環境と調和するまちづくりへ



集まった70人と初夏の山歩きを楽しみ、笑顔を見せる茅織さん（5月21日、「mixひとびとtango2011」で）

kyotangojin

「ウインズやさか野」会長

いまにし ち おり
今西 茅織さん（86歳）

弥栄町和田野

京丹後人

14

心の絆の大切さを伝える にぎやばあちゃん

「弥栄町和田野に元気なおばあちゃんがいる」と聞いて訪ねた。今西茅織さん（86）。茶道の師範として、おもてなしの心を伝える傍ら、飾らない自然体で、人と人の心をつなぐ活動を行っている。自分自身の経験を基に、心の絆の大切さを訴える。

大正生まれの茅織さんは、戦時中に少女期を過ごした。当時としては比較的裕福な家庭環境にあったが、「17歳のとき、福知山の土木会社の社長宅に奉公に出ました。それはもう厳しくつらい毎日でした」と振り返る。

24歳で嫁ぎ、農業に従事して家族を支えた。「当時、女性は、自分がやりたいことも自由にできないという時代だった」と言うが、それでも農業の合間に茶道を習ったりお茶花を摘みに山へ足を運んだりした。「自分の人生のチャンスになる」と、婦人会など地域の活動も積極的にこなした。

人生の転機が訪れたのは、53歳のとき。茅織さんは重い病に倒れ、長い闘病生活を送ることになったが、リハビリを兼ねた

毎日のウォーキングで克服。「スイス村マラソン大会（3キ）にも挑戦し、周囲の人たちを驚かせたこともありましたね」と笑う。

「病気になるたおかげで、初めて生きている幸せを実感しました」と話す茅織さんは、平成18年、女性グループ「ウインズやさか野」を設立。竹野川沿いの水辺公園をイルミネーションで飾るといふ、心に抱いていた夢を実現させた。このとき既に80歳を超えていた。

「明治、大正、昭和、平成の4時代に生まれた人々が今、肩を寄せ合って暮らせることは、何物にも替え難い幸せなこと。愛する家族を戦地へと送り出さなければならなかった女性の心情を思うと今でも心が痛み、先人への感謝の気持ちと平和への祈りを、何らかの形で伝えたいと思っています」。

同公園は毎冬、それぞれの時代の「心」を表す、4色の光に包まれる。（本紙1月号で紹介）

今は、160人の仲間と地域のイベントや文化祭などで、手作りのお菓子を振る舞ったり昔の遊びを子どもたちに教えるため、地元の小中学校に四季折々の山野草を届けることも欠かさない。

「山から元気をもらっている」と言う茅織さん。5月21日には、通い慣れた同町須川の遊歩道を歩く催しを企画。集まった70人と初夏の山歩きを楽しんだ。

「この年になって、充実感でいっぱい」。

つぶやき

▼今年も、半分を折り返しました。半年の間にはさまざまな出来事がありました。

▼東日本大震災は、今を生きる私たちの記憶にはつきりと残ります。過去の教訓や経験を貯え、今を精いっぱい頑張ろうと思います。

▼梅雨の時季に入りました。先月は、台風2号の影響で市内にも多くの雨が降りました。「備えあれば憂いなし」というように、いざというときに備えて、懐中電灯、携帯ラジオ、予備の電池の準備。さらに、避難経路、避難場所を今一度、確認しておきましょう。

▼この梅雨が抜ければ――。夏が待っている。／輝

人口・世帯数

男	29,377人	(+15)
女	31,403人	(-19)
計	60,780人	(-4)
世帯数	22,225世帯	(+47)

5月1日現在・カッコ内は前月比。
住民基本台帳による。

負けるな東北!! がんばれ東北!! 京丹後は全力で応援します

東北地方太平洋沖地震京丹後市災害支援対策本部